



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 26 年 2 月 15 日(土)
まち灯り・冬 編

とうとう、秋田銀行能代支店の解体が始まりました！まさかこんな大企業が！しかも 50 年近くこの地域にあった銀行が無くなるとは夢にも思いませんでした。銀行とスーパーが無くなってから人が歩く姿はほとんどなくなり、ご近所で顔を合わせることも少なくなった上町。高齢者は買い物難民となり、食生活の乱れが心配されています。

そんな街を活気つけようと、まち灯りに空き店舗となったスーパーテラタを利用して屋台村をすることにしました♪上町自治会でありすみれ会メンバーの安岡さんのご好意で、1 日だけ店舗を借用。8 か月ぶりにカーテンが開き、いつも協力して下さる皆さん(やま久・茶誠堂・鶴形そば・ときめき隊)そして今年は新たに能代養護学校の生徒さん、藤里社会福祉協議会の皆さんが初参加！

養護学校で販売している食品や藤里の舞茸キッシュは飛ぶように売れてあつと言う間に完売！とっても喜んでいただきました♪

スギ灯りの設置がいつも大変なのですが、養護学校の生徒さん達が手伝って下さり、ほんとに助かりました。皆なの協力で優しい光が灯り奇跡的に穏やかな好天となり、安堵。

また、夏に引き続き市の複合施設サンピノのエントランスホールをお借りしての会場は大賑わい。木の製品をはじめ、能代で昨年から活動を始めた若者たちが活動する団体「マナノサト」が全面協力して下さり、活気ある最高のまち灯りとなりました。もちろんお菓子屋さんも参加です。サンピノ周辺駐車場はどこもいっぱい！嬉しい悲鳴の続出でした。

この他にも畠町では「やらねすか 48」や「NPOミライ 10」などが参加し、ろうそくだけでなく様々な灯りを凝らし、賑わい創出に一役かってくれました。毎年新聞には過去最多の団体参加と掲載していただき、皆さんへの感謝でいっぱいの 1 日でした。

今年 4 月から指定管理になる予定の金勇では中庭のライトアップと全館照明を付けて、その美しいこと！！会議の際には企画としてなかった、かつて「木都」として輝く栄光を手にしていたころの映写フィルム上映やお膳にお鮎子 1 本とお菓子のサービス。周知が出来ず集客に失敗。とっても、残念・・・来年は早めに準備をはじめましょう～。

「みんなで乗ればエコになる」の巡回バスや能代タクシー



今年も西村土建さんが会場周辺を除雪して下さいました。



ガラとした真っ暗な店舗内、幸和リースさんのご協力を得ながらみんなで会場設営します(上)。スギの香りとやわらかな光が溢れる空間にたくさんのお客様がありました。



サンピノ内はお菓子屋さんや若者のお店でいっぱいに。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

センターの無償電気タクシーは大入り満員！私は最終に乗り遅れ歩いていたらイベント終了時間となり、終了ミーティングも出来ず、反省しています。

この他、西大通り商店会・おかみ賛会や駅前商店会でも温かい甘酒、鍋、ビンゴゲームなどを準備していただき、今年初参加の店主の皆さんで作る「逸品会」では、シフォンケーキや豚汁を作りお客様への十分なおもてなしをして下さり、19年から続けるまち灯りですが、初めて商店街が繋がった気がして感動と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

忘れてはいけない上町すみれ会は夢工房 咲く❀咲くでキーマカレー、旧テラタで玉こんにやくを販売し嬉しい完売。もちろん、サンピノ入口で開いたNPO法人常盤ときめき隊の焼き鳥は飛ぶように売れ、みんな熱くて顔が真っ赤。嬉しい悲鳴の販売でした。いつも横手から来てくださるウディさんないさんも収益があがったようです。

販売するからには、やっぱり売れないと楽しくありません。ポップや接客の姿勢。学ぶことがいっぱいありますが、決して無駄にはならないと確信しています。

あつと言う間にまた、夏がきます！今度は何をしようかな～お楽しみに。

文：能登 裕子

今回初めて参加させていただいた能代養護学校です。児童生徒の「自立と社会参加」につなげる取り組みとして、「地域に貢献したい」という思いのもと、「のしろまち灯り」の運営に関わらせていただきました。

高等部2年生の12名で、イベントで使用するろうそく200個を作り、上町すみれ会、市民プラザ、能代観光協会へ納品しました。製作時には、上町すみれ会の方々に来校していただきろうそくの作り方を教えていただきました。

イベント当日には、ろうそくの設置と本校の作業製品の販売、屋台会場に訪れたお客さんへのお茶のおもてなしをしました。ろうそく作りから、納品、設置と運営に関わり、地域の方から「ありがとう」「助かった」と言ってくれ経験を通して、生徒は人に喜んでもらえるうれしさや、役立てたという達成感を感じることができました。接客では「笑顔」「両手で」「ゆっくり話す」などそれぞれの目標をもってコミュニケーションスキルを向上することができました。

このたびの活動を通して、生徒たちからは「緊張したけど



サンピノの外では常盤ときめき隊のテントから香ばしいにおいが漂い(上)、能代工業高校と木高研のコラボによるLEDスギが来場者の足元を照らしてお出迎えます(下)。





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

丁寧にお客さんに声をかけることができた。」「ろうそく作りが楽しかった。」「みんなが喜んでくれてうれしかった。またやりたい。」といった感想が聞かれました。次回もぜひ、参加させていただきたいと思います。

文： 能代養護学校教諭 鎌田 亜希子

今回初めての参加、出店と全体を通して撮影させていただきました秋林と申します。

秋田県内のたくさんのイベントに参加、視察などをした点から地元能代を見させて頂きました。能代全体のイベントとしては長く継続してる唯一の冬のイベントですが、せっかくの冬のイベントなのに街全体の協力感がなかったのが残念です。各通りの商店街や市民がもっと参加できるようなイベントであれば冬のイベントとしてもっと成功できるのではないかと思います。

以前私も視察に行った北海道小樽市で同時期に行われている「雪灯りの路」はのしろまちあかりととても酷似しています。たくさんの集客を呼ぶための要素はたくさんあると思います。例えば例年作られている廃油によるろうそく作りなどこだわりのもいいですが、一般市民が安易に参加できるように、灯りを灯せる思案も必要かと思えます。今回 NC のしろでされていた LED による点灯などはよかったと思えます。あれくらいであれば 100 均などで売っているので、一般の方も簡単に参加できるのではないのでしょうか。通常のろうそくだけでも十分だと思われま。そして天候に左右されない灯し方や配置なども工夫が必要かと思いました。「まちあかり」と言う名のイベントだけに灯りを絶やしてはいけない、街中を灯りでいっぱいにするなどブレないコンセプトも必要かと思えます。軸が決まらなるとただのイベントで終わってしまいま。

次にイベントを通しての「人」の動線です。今回巡回バスや電気タクシーなどが配置され、私も乗りましたがたくさんの人で満席になるくらいの需要だったのでよかったと思われま。ただポイントポイントの会場が遠いのと、歩いて回るには先程も述べたように灯りが少なすぎるのだと思えます。能代の街を歩いて回るには寂しさがありました。

来年も行うのであればもっと早い時期に話を煮詰めて進めて行けたらと思えます。

文： Atelier-K 秋林 和美

